

目的

地域・社会や産業界の方々と生徒が連携し、地域のよさを生かした「PR活動、ものづくり、商品開発等」といった行動を伴った探究的・協働的な学習を行う中で、生徒が主体的に自分の役割や将来について考えたり、地域や社会に貢献したりしようとする態度を育成する。

年間計画例

探究課題の設定

- 地域の現状と課題、地域のよさや魅力、生徒の思いや願い等を基に探究課題を設定する

連携先の決定と企画

- 「PR活動、ものづくり、商品開発等」の内容を企画
- 連携先の決定と打合せ
 - ・企業 ・商工会議所 ・自治会
 - ・NPO ・高校 ・行政機関 等
- 目標の共有
- 活動の計画作成等

成果の発表・交流、振り返り

- 実践交流会での発表・交流
 - 活動の振り返り
 - 連携先への報告
 - 振り返りを基に、次年度の取組に向けて計画
- 等

連携先と協働した活動

- 企画に係る情報収集（アンケート調査等）
- 試作品等の作製
- 広報・宣伝
- 完成品の配布、販売等

実践校（6校）

①中津市立山国中学校

- 地域の活性化のため、山国支所や農業公社やまくに等と連携
- ふるさとまつりでスティック大学芋の販売や山国をPRする活動等を実施



②杵築市立山香中学校

- 地域を盛り上げるために、猪肉の処理・販売業者や饅頭屋と連携
- 猪肉を使ったオリジナル中華まんを開発、販売等を実施



③臼杵市立野津中学校

- 地域を元気づけるため、製茶会社、和菓子販売店等と連携
- 特産品を使ったオリジナルの和菓子や洋菓子等の開発、販売等を実施



④佐伯市立米水津中学校

- 地域の魅力を再発見するため、水産協同組合や南部振興局等と連携
- 水産学習を通して、特産品の干物を広めるためのレシピ作成等を実施



⑤竹田市立直入中学校

- 地域の魅力を発信するため、九州アルプス商工会等と連携
- オリジナルパンフレットを作成し、県外で配付してPR活動等を実施



⑥日田市立南部中学校

- 地域貢献のため、日田祇園山鉾振興会、昭和学園高校等と連携
- 被災地支援の募金活動、祇園祭への参加、クッキーを販売等を実施



実践校と内容等

令和6年度 大分っ子『未来創造プロジェクト』実践交流会

目的

- ①地域・社会や産業界と連携
- ②地域のよさを生かした商品開発等、行動を伴った探究的・協働的な学習
- ③自らの生活や行動に生かす

期日
場所

令和7年2月1日(土)
別府国際コンベンションセンター
(ビーコンプラザ) 国際会議室

(1) 実践校によるステージ発表



(2) 取組や制作物等のPRタイム

ステージ発表だけでは伝えきれなかった取組の詳細や実際の制作物を各ブースに準備。オリジナル商品を販売したり、参加者に意見をもらったりするなど学校ごとにPRを行った。



(3) グループディスカッション

「地域・社会の一員として次に私ができること、したいこと」

学校・学年の枠をこえて、テーマに沿って意見交流を行った。



交流会の様子と感想等

【参加した生徒・先生・保護者等の感想】

生徒

- 大分県の各地から来た生徒の発表を聞いて、やはりみんな自分の地域に対する思いがすごく熱いと思いました。真剣に考えていかないとあんなに素晴らしいものは作れないと思いました。
- 今日の交流会では地域の人たちとのつながりというものが重要だと思った。地域の文化、伝統的な祭りは絶やすことなく継承していきたい。
- 今後また、地域について学んだりする活動があると思うので未来を考えてやっていきたい。

■人口減少・高齢化が課題

- 人口減少・高齢化が課題となっていて、人口を増やしていくためには、積極的にお祭りに参加したり、その地域の魅力や文化を伝承して、その魅力や文化を知ってもらい観光客を増やしていきたいと思いました。
- 地域のイベントに参加すること、課題を見つけ工夫しながら解決すること、地域のよいところを発信すること、この3つが特に大切だと思いました。地域にはよい所がたくさんあると思うので、少しずつでも伝えていきたいと思いました。

保護者

- 交流できる機会を設けて頂いて嬉しいです。狭い地域で暮らしていて井の中の蛙となるのではと心配もしていましたが、新しい視野も拓け、想像豊かに創造力も高まるのではないかと思います。

- 自分の生まれ育った地域の風土が当たり前のことではなく、他とは違った特色を持つことに気付かされる発表であったと思います。その特色をいかに受け入れ、いかに発信していくか、地域貢献に携わる体験を通して自身の役割を見つけてくれるといいなと思いました。

先生

- 「参加させて本当によかった」この一言につきます。この機会があることで、キャリア教育について考え、子どもたちとともに地域活性化のために真剣に議論することができて良かったと思います。

- 子どもたちは有意義な時間を過ごすことができ、今回の経験を糧にして今後さらに探究的な活動を展開していくことでしょう。まさしく“未来創造”の取組であったと実感しています。今回のイベントがゴールではなく、これからも活動を未来へとつなげていくことを自覚しなければなりません。